

子ども環境ラボ レポート

vol.20

子どもと本の幸せな出会いを
～はじまりは、おうちの中の小さな図書室～

2022年 6月18日(土) 10:00～11:50

講師:鈴木 晴子 氏

Zoomオンライン配信 申込者 29名

キーワード 家庭文庫 居場所 読み聞かせ 図書館

■はじめに

東京子ども図書館は私設の図書館。2つの土屋児童文庫(1955・1956) かつら文庫(1958) 松の実文庫(1967) の4つの家庭文庫が集まって1974年に開設された。石井桃子の『子どもの図書館』出版がきっかけとなり、家庭文庫は1960年代後半～1980年代にかけて爆発的に広まった。現在、個性的な文庫が全国にある。



■100年もつ建物を

・1997年建物完成し、活動の新たなスタートとなった。地下1階・地上2階。児童室(図書館)、多様な活動ができるホール、おはなしのへや、資料室からなる。図書館が地域の文化的な存在として、まちがより良く変化していくような建物を目指した。
・会員は3歳～高校生。図書館の5つの決まりを守れる子が会員になれる。スタッフときちんとやり取りができる事、自分の名義(意思)で図書館を利用する自覚を大切にしている。3歳未満はプレ会員(保護者が登録)。
・物語の本は対象年齢ごとに3段階にわけて並べている。ノンフィクション分野は日本十進分類法によって整理。どこの図書館でも同じルールで本が並んでいることを子どもが知ることは、図書館の利用教育になると考えている。
・おはなしのへや。子どもだけが入れる煉瓦の壁に薪ストーブがある小さな部屋で、お話のろうそくを灯してお話が始まる。子どもたちが不思議な事が起こると信じられる場所。



■文庫時代から変わらず大切にしてきたこと

①「スタッフと子どもの密接な関わり」
子どもと本を読むことをサービスの根幹にしている。どの子にも本を読んでもらう楽しみを体験してもらう事が、本好きになる1番の方法。スタッフと子どもが信頼関係をもち、一人ひとりに寄り添った本選びをサポートする。
②「児童室にある本が丁寧に選ばれている」蔵書8800冊。文庫時代から読み継がれている本を核としている。子どもが本を選ぶ様子を見てみると、多過ぎず見渡せる範囲の方が子ども自身のアンテナが働き、自分の好きな本が目飛び込んでくる。新刊本は20人程の選書会議で選ぶ。子どもたちと関りから「子どもにとってたのしい本とは何か？」を学び、選書に生かしている。



■新たな50年に向けて

コロナ禍で児童室を閉鎖し、Instagram、大人向け講座のライブ配信などオンライン企画を始めて活動が広がった。子どもたちにとって、図書館は来る義務がなく自由に来られる場所である。だからこそ自分の居場所として必要としている子がいる。「くつろいだ空間」というのは建物だけではなく、人との関わりや本との出会いが有機的に結びついて生み出される。人々の賑わい、対面での語らいが、社会でも大切な事と認識されてきていると感じている。

■館内ミニツアー

■本の紹介

児童図書館基本蔵書目録全3巻『絵本の庭へ』『物語の森へ』『知識の海へ』『よみきかせのきほん』他



講師紹介



鈴木 晴子 氏

東京子ども図書館職員。
児童室とかつら文庫で、子どもへのサービスを担当。

東京子ども図書館

石井桃子や松岡享子らが開いた家庭文庫を母体に、1974年に設立。
子どもたちへの直接サービスの他、「子どもと本の世界で働くおとな」のために、資料室の運営、出版、人材育成など、様々な活動を行っている。



東京子ども図書館
レンガづくりの外観。
6月には赤と白のバラが咲く。



児童室。好きな本を好きなだけ読んでもらう。

質問コーナー/ゲスト: 杉山きく子氏(都立図書館を退職後、埼玉県で風波野(ふつとの)文庫を主宰。東京子ども図書館・理事)

■プレ年代(3歳未満)の子どもを迎えるのに心がけていることは。

・乳幼児の利用が増えているが、それに合わせてあえて赤ちゃん絵本をおくことはしていない。乳児期にはあせて大人をすすめずに、わらべうたなどを通して身の回りの大人との関係を築くことを大切にしてほしいと伝えている。

■図書館に行く時間がない。子どもを本好きにする環境づくり、部屋の作り方はあるか。

・本を読んであげるのが一番大きな手立てで、本を読んで「楽しい時間」を親子で共有する。本を読むとは身も心も一緒に向き合うことで、この時間を自分のために使ってくれているということが子どもに伝わる。

■子どもはYouTubeが大好き。おはなし配信ブックトークを見せても良いか。

・子ども図書館のブックトーク Youtube は子どもに直接むけたものではなく、子どものそばにいる大人たちに読み聞かせを広めるために作成した。今の社会状況は、子どもがデジタルコンテンツに慣れていくのは簡単、私たちは生の体験を意識して残していけないといけない。

■保育園の蔵書絵本が古く、同じ本を読んでいる。2022年の新しい本も必要なのか。

・良い本は出版された年代とは関係ない。子どもは好きな本は何度でも読む。過去に出た優れた本、ロングセラー絵本を蔵書に揃えていくのは大切なこと。

・子どもにとっては出会うものが全て新しい。2022年の本も1950年の本も、子どもにとってはどちらも新しい。2022年に生まれた子が2022年以降の本しか知らないで育つのは損失と思ってブックリストを作っている。

■入口はなぜ2つあるのか。

正面入口と車の通りが少ない道に面した児童室入口がある。ホールで大人対象の催しがあるときは、大人と子どもの動線をわけることができる。ホールでは講演会やイベントを開催して、運営資金を捻出している。ホールはサロン=子どもと本に関わる人の拠点となっている。